

S.U.N.

No.39

2026 August

~The Journey of Dance Never Ends~
仲間と共にダンスで描く最高の旅

スペシャル対談
岡島豪郎×平山相太
—競技人生のその先へ—
Catch the future

夢中人 | 研究室より | 同窓会情報

ダンス部の挑戦

チーム全員の努力

Team Effort

~The Journey of Dance Never Ends~ 仲間と共にダンスで描く最高の旅

20年を超える同好会としての歴史を経て、昨年、待望の「部」へと昇格し、新たな一步を踏み出したダンス部。4月の新入生歓迎ダンスで学内を沸かせたほか、地域と一体となった活動でも着実にその存在感を高めています。今回は、指導に情熱を注ぐ小川真季監督に部の現状と今後の抱負などを伺いました。

Q 指導する上で重視していることは？

ダンスの技術向上はもちろん大切ですが、私が最も重視しているのは、ダンスを通して人とのつながりや輪を広げていくことです。ダンスの楽しさを知り、その魅力を周囲に発信できる人になってほしいと思っています。そのため、練習だけでなく、仲間とたくさんコミュニケーションを取り、芸術や文化などのさまざまな作品に触れることを通して、感性や創造力を磨くことの大切さを伝えていきます。教員を志望する学生も多く、将来子どもたちと関わる場面でも、ダンスはコミュニケーションの力になると考えています。

Q ダンス部の雰囲気は？

ダンスバトルでの活躍を目指す部員もいますが、多くの部員は初心者として入部してきます。得意なジャンルもさまざまですが、お互いを尊重し、支え合いながら練習に取り組む姿が印象的です。そんな仲間同士の温かな関係性に、私自身も日々「ダンスっていいなあ」と感じています。

また、全日本大学ストリートダンス選手権東北予選で優勝し、4年連続全国大会出場を果たした卒業生の高橋一輝さんが今でも練習に顔を出してくれます。先輩から後輩へと受け継がれるつながりも、この部の魅力です。



小川真季監督

子ども運動教育学科 助教
専門分野:ダンス、舞踊教育、身体表現、コンテンポラリーダンス、ヒップホップ
広島県尾道市生まれ。3歳からモダンバレエを始める。東京女子体育大学卒業・日本女子体育大学大学院修士課程修了。東京の私立中高一貫校教員を経て、2024年に入職。インストラクター、ダンサー、ダンス作品の振り付け、舞台演出(ダンス公演総監督)なども担当。

Q ダンス公演「DANDANDANCE & SPORTS」について教えてください。

今年度で23回目を迎える本公演は、先輩方から受け継がれてきた伝統あるイベントです。現在も来年1月の開催に向けて準備を進めています。「ダンス」というタイトルには、「だんだんダンスになっていく」「だんだんダンスが好きになっていく」という願いが込められています。ダンスに上手い、下手は関係ありません。踊る人も観る人も一緒に楽しみ、ステージと客席の垣根を越えた一体感を生み出すことを目指しています。

また、公演はダンス部だけでなく、ダンス経験のない学生も多く参加し、イベントの企画・運営や広報活動などを担っています。本学の総力を結集したイベントです。

Q 今年度の活動テーマは？

今年度は「縁」をテーマに、「E^縁n」と表現しています。背景には、昨年実施した沖縄県石垣島の合宿があります。地域の皆さんに温かく迎えていただき、ダンスの授業や伝統芸能の交流など、多くの貴重な経験をさせていただきました。そこで生まれたご縁への感謝と恩返し思いを込めながら、公演や地域イベントに取り組んでいます。今年も柴田町町制施行70周年記念式典やスポーツイベントなどでも、ダンスを通じて地域とのつながりを広げていきたいと考えています。

Q 高校生の皆さんへメッセージをお願いします。

ダンスはスポーツやエンターテインメントだけでなく、教育や福祉、地域社会など幅広い分野で活用されています。ダンスの経験の有無は問いません。新しいことに挑戦したい、人とのつながりを大切にしたいという皆さんと一緒に、ワクワクする活動をつくっていききたいと思っています。ぜひ本学のダンス部に注目してください。

表現の探求とチームで踊る一体感／笑顔と感動の輪を広げるダンス部

ダンスバトルを目指す人や久しぶりにダンスを再開した人など、多彩なメンバー18人が活動しています。

その中の6人が、ダンスを始めたきっかけや未来への想いなどを語ってくれました。

①ダンスを始めた時期ときっかけ ②本学を選んだ理由 ③ダンス部の強み ④今後の抱負 ⑤目標・夢 ⑥好きなこと／好きな食べ物／好きな言葉 ⑦高校生の皆さんへのメッセージ



ダンスの楽しさを伝える先生になる／

くさか
日下 ひな さん

ダンス部主将【ジャズ・ガールズが得意】
体育学科4年/宮城・聖和学園高校出身

- ①子どもの頃からダンスが好きで小中で新体操、高校で競技チアダンス部に所属。本学入学後本格的にダンスを始めた。
- ②教員免許取得をめざして。
- ③表現力を磨きながら、ダンスを通して交流の輪を広げることを大切に活動している。教員志望が多く、小中学校でのダンスの魅力を伝える活動は将来にも役立つ。
- ④今はブレイキンダンスの歴史を学びながら、部員全員で挑戦中。私たちのパフォーマンスを通して、観客にメッセージを届けたい。
- ⑤ダンス同好会の部への昇格が目標だったが、昨年念願を果たした。今は小学校の先生になり、身体を動かす楽しさを子どもたちに伝えること。
- ⑥スケジュール管理 / オムライス / 「明るく素直に美しく」
- ⑦仙台大は活発なコミュニティが多く、それぞれ輝いています。最高の思い出が詰まった4年間で共に作りましょう！



目標は、ダンスバトルでの優勝／

さとう れん
佐藤 漣 さん

【ブレイキンが得意。県の大会でBEST8】
スポーツ栄養学科3年/福島明成高校出身

- ①小2の時に参加した体験会が楽しかったのがきっかけで、ダンスにハマった。
- ②地元の先輩が本学の学生だった。この環境で自分のナンバー（ダンス作品）を創ってみたいと思ったので。
- ③運動神経が良い人が多く、フリを大きく見せられるのが強み。
- ④ダンスバトルへの出場や県外のイベントに積極的に参加するなどして、皆と一緒にそれぞれのスキルアップをめざしたい。
- ⑤ダンスバトルで優勝すること。
- ⑥読書・動物と戯れる / ラーメン・焼き魚 / 「世界は解釈でできている」
- ⑦やりたいことがあれば極めるまで全力で取り組む。得意なことがあればそれが自信につながるので、まずはやりたいことを見つけてみよう。単位はしっかり取りましょう！



誰もが楽しめるダンスイベントを創りたい／

ふなき りお
船木 理央 さん

【ヒップホップ・ポッピンが得意】
体育学科2年/福島・安達高校出身

- ①幼い頃からダンスに夢中で、よく踊っていた。
- ②野球に取り組む中（全国高校野球選手権福島大会 2024 ベスト16）で興味を持つようになったコーチングを学ぶために。ダンススキルを伸ばし、交流の輪を広げようと思い大学ではダンス部を選んだ。
- ③初心者でも踊れる振り付けを創り、さまざまなシーンで楽しく交流できること。
- ④ダンスのクオリティを高めながら、よりよい演目を披露すること。子どもから高齢の方まで誰もが楽しめるダンスイベントを創りたい。
- ⑤ダンスバトルやイベントなどに出場し、さらに高みを目指し、将来はスポーツ関連の仕事に就きたい。
- ⑥野球・ダンス・スポーツ全般 / おいしければ何でも / 「一石二鳥」
- ⑦体育やスポーツに興味のある方は仙台大学がおすすめ、共に学んでいきましょう！！



多くの人に感動を届けたい／

すずき りか
鈴木 梨華 さん

【ヒップホップ・ジャズが得意】
体育学科3年/福島西高校出身

- ①本学に入學後、ダンスで自分を表現し、自信をつけたいと思ったから。
- ②教員免許取得とスポーツを専門的に学べる環境に魅力を感じたから。ダンス部の体験会に参加した際、温かく迎えてもらい、とても楽しかったのだ。
- ③とにかくカッコいい！地域の方々となつがり、元気と笑顔を届けている。男女や学年を問わず仲が良い。
- ④去年初めて『DANDANDANCE & SPORTS 実行委員』として運営・出演を経験し、大きなやりがいを感じた。先輩方の思いを大切にしながら、多くの人に感動を届けたい。
- ⑤楽しく生きること・芸能マネージャー
- ⑥散歩・筋トレ / 全部好き！ / 「やる気は自分から動くことで生まれる」
- ⑦本学には自分の好きなことに挑戦できる環境があります。新しい経験や仲間との出会いを通して、自分自身を成長させることができますよ。



チャレンジスピリットが新たな世界を拓く／

こう いに
黄 緯妮 さん

【ワッキングを勉強中】
スポーツ栄養学科 交換留学生/台湾・台東大学

- ①高校生のダンス動画を見るのが好きで、真似をして練習していた。皆で踊ることに憧れ、留学を機に入部した。
- ②栄養学に興味があり、本学では交換留学生として幅広く学べるところに魅力を感じた。
- ③それぞれの個性や長所を生かしながら、さまざまなジャンルを挑戦できるところ。
- ④ステージで観客や家族、友達に楽しんでもらえるパフォーマンスをしたい。
- ⑤イベントもできる温かい雰囲気の喫茶店を開きたい。
- ⑥音楽・手帳・散歩と昼寝 / 抹茶味のスイーツ・カレー・キムチ納豆そば / 「なるようになるさ」
- ⑦留学してからスポーツや栄養、自分自身についても深く理解できるようになりました。ダンサーとして頑張りたい方はもちろん、スポーツ科学に興味がある方にも、ぜひ来てみてほしい！



出会いを大事に、思い出を作りたい／

しもやま ふうが
下山 楓雅 さん

【ブレイキン、ポッピンが得意】
体育学科1年/青森・三本木高校出身

- ①小1の時、体験会に参加して、ダンスの楽しさに目覚めた。
- ②高校時代の恩師の影響で保健体育の先生を目指すようになった。先生の出身大学の本学を選び、入学を機にもう一度ダンスに挑戦しようと思った。
- ③先輩が皆優しく、初心者でも始めやすい。人前に立つ度胸が付き、練習の成果を本番で発揮できた時は達成感を感じる。
- ④先輩方が思いを込めて創り上げた「DANDANDANCE & SPORTS」を受け継ぎ、最大限貢献をしたい。1つずつのイベントで出会いを大事にして思い出をたくさんつくりたい。
- ⑤中学校の保健体育の先生
- ⑥ダンス / 母と祖母の作るチキンスープ / 「人生はプラマイゼロ」
- ⑦夢や目標を叶えるために頑張る仲間がたくさんいて、そのための環境も整っています。スポーツが大好きな人、応援することが好きな人もぜひ来てください！！

一人ひとりに寄り添える 「社会福祉士」を目指して 本学で描く未来

ゆう き ま お
結城 真央さん

健康福祉学科3年 SENDAI UNIV.GOLF CLUB 山形・新庄東高校出身

<my favorite> 好きな言葉/「ハワナ・マタタ」(『映画ライオンキング』の劇中歌に登場する、アフリカのスワヒリ語で「問題ない」、「心配ない」、「どうにかなる」という意味) 好きなこと/ディズニーの情報収集
夢/社会福祉士の資格を取得し、医療ソーシャルワーカーになること



社会福祉士とは、身体的・精神的・経済的な理由で困難を抱える人々の相談に応じ、関係機関との連携や支援を通じて生活を支える福祉の専門職だ。少子高齢化や地域課題に伴い、その役割への期待はますます高まっている。

社会福祉士を目指し、学ぶ結城さんは「困っている人の力になりたい」「地域社会に貢献したい」という思いを原動力に、講義やボランティア活動を通じて知識と実践力を身につけている。

誰かの支えになれる社会福祉士へ

結城さんが本学の健康福祉学科を選んだ理由は、体育・スポーツを基盤に健康と福祉について専門的に学び、将来は福祉分野で活躍したいという明確な目標があったからだ。

社会福祉士を目指したきっかけは、家族を亡くした経験である。その経験を通して、「不安や悩みを抱える患者やその家族に寄り添い、支援できる医療ソーシャルワーカーになりたい」と考えるようになった。

医療ソーシャルワーカーを目指し、社会福祉士の資格取得に向けて、本学で専門的な知識を日々深めている。将来は「一人ひとりの思いに寄り添い、心の支えとなれる医療ソーシャルワーカーとして社会に貢献したいです」と語る。

授業での学びを実習へ

8月に実習を控えている結城さんは、授

業で学んでいる「対人技法」や「福祉制度」の知識を最大限に生かし、有意義な実習にしたいと意欲を見せる。

社会福祉士は、子どもから高齢者まで幅広い年代の人々を支援する専門職であり、相談内容も生活困窮や介護、障がい、家族関係など多岐にわたる。そのため、一人ひとりの状況や思いに寄り添いながら、適切な支援につなげる力が求められる。

結城さんは、「授業で培った知識やコミュニケーション能力を実践の場で磨き、利用者一人ひとりに寄り添える社会福祉士を目指したいです」と話している。

将来につながる経験を一つひとつ

「たくさん経験をしたい」という思いから、ボランティア活動にも積極的に取り組んでいる。地域のイベント運営や活動補助等を通して、さまざまな立場の人と関わる機会を重ねている。

活動の中では、相手の話に耳を傾け、状況や気持ちを理解しようと努める中で、コミュニケーションの大切さを実感しているという。また、支援を必要とする人々の生活や地域課題に触れる中で、社会福祉への関心もさらに深まった。

こうした経験は、授業で学ぶ知識をより実践的に理解する機会となり、将来、社会福祉士として働く上での貴重な学びにつながっている。

結城さんは「一つひとつの経験を大切にしながら、自分自身も成長していきたいです」と話し、今後もさまざまな活動に挑戦



し、夢の実現に向けて歩み続ける。

「幼稚園教諭」の夢に向かい、 実習や仲間との学びを通して 大きく成長する

さとう いたる
佐藤 達さん

子ども運動教育学科4年 宮城・東北高校出身
<my favorite> 好きな言葉/百折不撓 好きなこと/剣道、サイクリング、楽器演奏
夢/幼稚園教諭になること



子どもと関わるのが好きという思いと、運動が苦手だった自身が高校時代の部活動を通して身体を動かす楽しさを知った経験から幼稚園教諭を志したという佐藤達さん。幼児期の運動遊びを重視し、実践的に学べる本学の子どもの運動教育学科で夢を叶えたいと考え入学。授業では身体を動かしながら試行錯誤を重ね、運動遊びの指導法や子どもへの関わり方を学んでいる。

子どもたちが運動を「楽しい」「好き」と感じられるきっかけをつくり、健やかな成長を支えられる幼稚園教諭を目指して、日々学びを深めている。

運動遊びで育む 子どもの自信と主体性

本学の子どもの運動教育学科では、「運動遊び」を通して身体を動かす演習が多く取り入れられており、座学だけでは得られない体験や学びがある。「身体を動かす、試行錯誤を重ねながら実践的な技術が身についていることを実感できる瞬間が楽しいです」と話す。

運動が苦手だった自身の経験から、「できた!」という達成感の積み重ねは、子どもたちの自信や主体性を育むことにつながると考えている。さらに、その成功体験の積み重ねは、子どもが新しいことに挑戦しようとする意欲にもつながると感じている。

将来は、身体の仕組みや発育・発達に関する知識を生かし、子どもの発達段階や

興味に応じた運動遊びを工夫しながら、一人ひとりの成長を引き出す幼稚園教諭を目指している。

実習で気づいた子どもへの関わり方

実習中、マット運動の時間に「運動が嫌い」と話す子どもと出会ったことが印象に残っている。授業で学んだ、幼少期の小さな失敗体験や周囲からのプレッシャーが運動への苦手意識につながる可能性があるという知識と重なり、「運動嫌い」についてより深く考えるきっかけとなった。

この経験を通して、子どもが安心して挑戦できる環境づくりや、一人ひとりに寄り添い関わることの大切さを学んだ。また、運動への苦手意識は、「周囲の関わり方や成功体験の積み重ねによって変化していくもの」であることも実感したという。子どもたちが「できた!」という喜びを感じながら、自信を持って挑戦できる環境をつくることの重要性を改めて認識した。

仲間との学びが成長の原動力

大学生活では、仲間との学びが大きな成長につながっている。授業や演習では、運動遊びの指導方法や子どもとの関わり方について意見を出し合いながら学びを深めている。自分にはなかった視点や考え方に触れることで、保育に対する理解が広がり、物事を捉える力が養われた。

また、子ども運動教育学科で行っている北海道標津町への研修では、グループ活動を通して協力しながら課題に取り組む機

会も多く、「コミュニケーション能力や協調性を身に付けることができました」と話す。

こうした経験を生かし、子どもたちだけでなく保護者や同僚とも信頼関係を築きながら、周囲と連携して子どもの成長を支える幼稚園教諭としての活躍が期待される。



経験を力に、仙台大で学び、未来を拓く！

スペシャル対談

競技人生のその先へ —元トップアスリートが語るセカンドキャリアのリアル—

元プロ野球選手/仙台大学大学院1年

岡島豪郎

okajima takero

元サッカー日本代表/仙台大学講師(仙台大卒)

平山相太

hirayama sota

アスリートにとって、現役引退後の進路は大きな関心事の一つです。そこで今回は「アスリートのセカンドキャリア」をテーマに、長年トップアスリートとして第一線で活躍された後、本学で学び新たなキャリアを築いている平山相太さんと岡島豪郎さんに、これまでの歩みや今後の展望について語っていただきました。

現役時代を振り返って

平山 僕はJリーグの開幕戦を見て「カッコイイ」と思ったことがきっかけで、小学2年生からサッカーを始めました。12年間のプロ選手生活では、ケガも多く、苦しい時期もありましたが、それでも続けられたのは、サッカーが好きだったからです。ゴールを決めた瞬間だけではなく、ボールを蹴っているだけで楽しかったですね。

岡島 僕も物心ついた頃には野球をしていました。好奇心旺盛で、野球以外にも水泳、陸上、バスケットボールなどいろいろな経験しましたが、やはり一番好きだったのは野球でした。好きだからこそ研究し、上達するために練習する。その積み重ねがあったから、14年間プロ野球選手を続けられたのだと思います。

平山 昨年10月に現役を引退されましたが、14年間の選手生活で特に印象に残っている出来事は何ですか？

岡島 2013年に楽天イーグルスが日本一になったことですね。震災復興に向けて「東北のために」という思いでチームが一つになって戦った中で優勝でした。東北各地

で「おめでとう」ではなく「ありがとう」と声を掛けていただいたことが、今でも強く印象に残っています。

平山 サポーターの応援には本当に力をもたらしますよね。僕がFC東京に所属していた時、J2降格を経験したことがあります。試合後、厳しい言葉を受ける覚悟でサポーターのもとへ向かったのですが「来年、必ずJ1に戻ろう」と逆に励ましてくれました。その期待に応えようとチーム一丸となり、翌年J1復帰を果たしました。サポーターの皆さんの思いが、選手やチームを支え、動かし力になるのだと感じました。

岡島 もう一つは、昨年10月の引退試合と引退セレモニーです。多くの方々に支えていただいた14年間の集大成として、あのような場を設けていただき、最高に幸せな選手生活だったと改めて感じました。

仙台大学を選んだ理由

平山 引退を考えたとき、大学で学ぶという選択肢は早い段階から考えていたのですか？

岡島 以前からスポーツ科学に興味があり、引退を機に本格的に学びたいと思っていました。楽天イーグルスとのつながりもあり、仙台大学で専門的な知識を身につけたいと思い、進学を決めました。



岡島豪郎 プロフィール

1989年生まれ。群馬県千代田町出身。関東学園大学附属高校、白鷗大学。2011年ドラフト4位で楽天イーグルスに入団。右投左打。速投110メートルの強肩と50メートル6.1秒の俊足を兼ね備え、2013年には球団初のリーグ優勝、日本一に1番打者兼外野手として貢献。2016年にはオールスターにも選出された。球団初の日本一を支えたリードオフマンとして活躍し、楽天イーグルスを代表する外野手の一人として長年チームを支えた。2024年には通算1000試合出場を達成。2025年10月4日、楽天モバイルパーク宮城で引退セレモニーが開催された。2026年4月より本学大学院生となった。



平山相太 プロフィール

1985年生まれ。福岡県北九州市出身。長崎・国見高校時代に、全国高校サッカー選手権大会で3年間通算17ゴールの歴代最多得点記録を樹立。全国大会優勝2回、準優勝1回を経験し、その圧倒的な活躍から「平成の怪物」と称された。アテネ五輪を目指すU-23日本代表では、最終予選および本大会に飛び級で招集された。卒業後、筑波大学へ進学するも、20歳でオランダのヘラクレス・アルメロと契約。その後、FC東京、ベガルタ仙台でプレーし、32歳で現役を引退。仙台大学で学びながら男子サッカーコーチを務めた後、筑波大学大学院に進学。2024年より本学専任講師、男子サッカー部監督。

平山 引退を決めたとき、将来に対する不安はありませんでしたか？

岡島 不安はなかったですね。何でもまずはチャレンジしてみる。ダメだったら次の手を考えるというのが僕のモットーです(笑)。大学院ではスポーツトレーナーに関する専門分野を学んでいますが、基礎知識が十分ではない分、内容は高度で大変です。それでも必死についていきます(笑)。周囲は20代が多く、最初は壁を感じましたが、積極的にコミュニケーションを取ることで、今ではみんなに支えてもらっています。

平山 僕は引退後は指導者になりたいという思いがありました。それと同時に、もう一度スポーツについて学びたいという気持ちもありました。国見高校卒業後に進学した筑波大学では、サッカーとの両立が難しく中退した経験があったので、学び直したいという思いがずっとあったのです。

ケガにも悩まされ、ベガルタ仙台で引退する際にその思いを話したところ、仙台大学とのご縁があり、入学しました。体育学部で4年間学び、その後、筑波大学大学院へ進学しました。合計6年間の学生生活でしたが、新しい知識を吸収する日々は本当に楽しかったです。授業や論文作成を通して、論理的に考え、伝える力も身についたと思います。

引退後の選択肢、指導者への道

岡島 プロ野球では球団に残り、コーチやスタッフとして関わる方も多いです。監督やコーチは、技術を教えるだけでなく、組織の中で大きな責任を担う仕事です。僕自身は

現役時代にできなかった家族との時間も大切にしたいと思っていますので、指導者という道は、今のところ考えていません。現在は、興味のあるパーソナルトレーナーの分野で、新しいことに挑戦できないか模索しています。

平山さんは、大学以外で指導者になるという選択肢はなかったのですか？

平山 プロサッカー選手の引退後は、所属クラブのスタッフやスクールコーチになるケースが多いです。ただ、僕は「指導者になりたいけれど、違う道も選みたい」と考え、大学で学ぶ道を選びました。

今は本学の男子サッカー部を指導していますが、全国から学生が集まり、部員数も約160人に上ります。成長がめざましい大学生を対象に指導する今の環境はやりがいがあり、自分に合っていると感じています。

学生の中にはプロ選手を目指す人も多いですが、選手生活は短く、引退後の人生は長い。だからこそ、競技を通じて人間的に成長し、その先にプロ選手や日本代表、世界で活躍する選手が生まれてほしいと思っています。

岡島 今は大学院という新しいカテゴリーに挑戦していますが、興味を持ったことには、これからも挑戦していきたいです。野球選手は、打っている時でもより良くするために打撃フォームを変えることがあります。常に成長したいという気持ちがあるからです。その姿勢は、現役を終えても変えたくないですね。

セカンドキャリアに必要なマインド

平山 大切なのは、人生を楽しむことだと思います。大好きな競技を仕事にして、それが終わった後に何もないというのではなく、次に自分がやりたいこと、人生を楽しむために取り組むことを見つけることが大事です。

岡島 僕は「チャレンジする気持ち」だと思います。自分で限界を決めず、まずはいろいろなことに挑戦してみる。僕自身もセカンドキャリアに向けた学びは始まったばかりなので、これから先、自分の未来を見つけていきたいと思っています。

平山 「やらない後悔より、やる後悔を選ぶ」ということを伝えたいですね。ただ、行動するときには計画を立てることも大切です。

岡島 やりたいと思ったなら、まず一歩踏み出してみることです。挑戦してみても、合わなければ方向転換すればいい。まずは自分の可能性を信じて一歩踏み出してみることだと思います。

平山 同感です。僕たちも常に挑戦する気持ちを持って大切にして、これからも進化し続けていくですね。



「データで勝利を支えたい！」 選手へのリスペクトを胸に、 未来を切り拓くアナリスト

く どう はる か
工藤 遥香さん

スポーツ情報マスメディア学科3年
青森・五所川原工科高校出身 女子バレーボール部 アナリスト

青森県深浦町生まれ。

趣味／ジグソーパズル 推し／超特急 好きな食べ物／辛いもの、餃子

好きな言葉／気配り・目配り・心配り

現在の目標／今年度、チームとして東北リーグ優勝そして全カレ1勝を目指す。



データ分析で戦略を支え、勝利に導くアナリストの存在。近年注目が高まる中、バレーボールのアナリストとして活躍するのが工藤さんだ。選手へのリスペクトを胸に挑戦を続ける学生アナリストの歩みと、その先に描く未来を紹介する。

恩師との出会いが導いた、 アナリストへの第一歩

工藤さんがバレーボールを始めたのは小学3年生。「父が社会人バレーをしていた影響と、宮下選手への憧れからです」と語る。当時、「天才」と称され、15歳で日本代表入りした宮下選手に憧れ、バレーに夢中になった。しかし、中学校のバレー部は部員数の減少により廃部に。高校では男子バレー部のマネージャーとなるが、その中で今につながる出会いがあった。「顧問の先生が、データ分析の重要性や、女性アナリストへの需要があることを教えていただきました」。もともと事前に情報を整理し、人に伝えたり発表したりすることが得意だったという工藤さん。「アナリストは自分に向いているのではないかと思います」。進学先を探す中で着目したのが本学のバレーボール部だった。「強豪校でアナリストやマネージャーとして関わる中でスキルを磨けたらとの期待がありました」。加えて、情報分野についても深く学びたいとの思いから、本学のスポーツ情報マスメディア学科への進学を決めたという。

選手を支える分析力と 信頼関係が、チームの力になる

入学後にバレー部の先輩アナリストから学びながら活動を始めた。「練習中は選手をサポートするマネージャーの役割も果たしつつ、試合中は映像を撮影したり、データを取ったりと、アナリストとして活動しています」。やりがいを感じるの

は、自身の分析や狙いが試合で成果につながったときだという。大会前などはオーバークになることもあるが、「みんなから『ありがとう！』と言ってももらえるやりがいを感じますし、もつと頑張ろうと思えます」と笑顔を見せる。また、アナリストとして心掛けていることについては、「選手あつてのアナリストです。選手の皆さんを常にリスペクトし、信頼関係を大切にしていきます。確実なデータを伝えるため、事前準備も欠かせません」と語る。

ふるさとへの思いを胸に、 新たなステージへ挑戦

工藤さんは、将来に向けた学びにも全力で取り組んでいる。保健体育の教職課程を履修する一方で、情報システム分野の仕事にも興味を持っており、進路については現在検討を重ねているところだという。

「教員になる場合は青森県に帰り、子どもたちの心に寄り添える先生になりたいです」。ふるさとへの思いを胸に、工藤さんは今年開催される「第80回国民スポーツ大会 青の煌めきあおもり国スポ」の少年少女バレーボールチームのアナリストとして帯同することが決まった。「今から楽しみです！」と笑顔を見せる。これまで積み重ねてきた努力が認められた結果であり、ふるさとへ貢献できる貴重な機会でもある。本学を代表する学生アナリストとして、さらなる活躍が期待される。

スポーツ科学でフィジカルを支える S&Cトレーナーを目指し、 学生コーチとして活躍中

むろい ひなた
室井 陽向さん

体育学科4年
宮城・富谷高校出身 サッカー部 S&Cコーチ

宮城県仙台市生まれ。

趣味／筋トレ 好きな食べ物／和菓子

大切にしていること／徹底した準備と信じあえる仲間

現在の目標／何事も全力で取り組み、自分を成長させること。



勝利の陰には、選手たちを支える多くの存在がいる。その一人がS&Cトレーナーだ。教員とS&Cトレーナーの進路を見据えながら学びを深める室井さん。挑戦を続ける姿と、その先に描く未来を紹介する。

選手からも信頼される トレーナーを目指す

室井さんは、幼い頃からサッカーに打ち込む中で、競技力向上やケガをしにくい身体づくりに携わるS&Cトレーナーの重要性を実感してきた。本学は、近年注目を集めるS&Cトレーナーの関連資格の認定校として、専門的な知識と技術を学べる環境を整えている。本学での専門的な学びと競技経験を生かし、「選手一人ひとりに寄り添い、信頼されるトレーナーとして競技生活を支えたい」と将来への意欲を語る。

フィジカル強化との出会いが、 新たな扉を開く

本格的にサッカーを始めたのは小学4年生。中学ではベガルタジュニア、高校ではベガルタユースに所属し、恵まれた体格を生かして6年間、フォワードやセンターバックなどさまざまなポジションで活躍した。

そんな中、興味を持ったのが、競技パフォーマンス向上を専門に支える「S&Cトレーナー（ストレングス&コンディショニング）」の存在だ。S&Cトレーナーは、筋力やパワーの向上、ケガの予防など、アスリートのフィジカル強化を指導する専門職。長身の室井さんは、チームのフィジカルコーチから身体の使い方やプレーの工夫を学ぶうちに、自身のパフォーマンス向上を実感。「将来はフィジカル面で選手を支える側になりたい」と思うようになった。

学びと実践が重なる、 学生コーチとしての挑戦

本学を選んだ理由について室井さんは、

「スポーツ科学を専門的に学べること、CSCS（認定ストレングス&コンディショニングスペシャリスト）とNSC-A-CPT（認定パーソナルトレーナー）の認定校であることが決め手でした」と語る。

入学後、当時男子サッカー部の吉井秀邦監督がクラス担任だったことが、学生コーチとしての新たな挑戦につながった。

「トレーナー志望だと伝えたところ、男子サッカー部の学生コーチとして手伝ってほしいと言われました」。160人もの部員を抱える男子サッカー部で、走り方やフォームなどの助言をする中、頼られる喜びを感じつつ、「対戦相手に応じてチーム状況は変化しますが、自分ができることを全力でやり続けるだけです」と語る。

教育への思いと自己鍛錬、 未来に向けた挑戦

学生コーチとしての活動に加え、保健体育の教員免許取得に向けた学びにも熱心に取り組む室井さん。家族や親せきに教員が多いこともあり、「子どもの頃から自分も学校の先生になるのかなと思っていました。これからの教育実習も楽しみです」と話す。さらに自身の鍛錬にも余念がない。大学1年生からプロテインを摂取し、週5回ジムで筋トレを続けた結果、現在は体重が10キロ増え、身体も一回り大きくなった。S&Cトレーナーになるか、保健体育の教員になるかは未定だが、「どちらの道を選んでも、人を支える仕事であることは確かですね」と笑顔を見せた。

オリンピックコーチの経験を学生へ 「テコンドー」で育む心の成長と国際的な視野

キム ハンノ
金 漢老 教授【テコンドー・韓国語】 体育学部 現代武道学科

韓国の国技であるテコンドーの第一人者として、長年にわたり競技指導と国際交流に尽力してきた金漢老教授。オリンピック日本代表チームのコーチを務め、女子67kg級で日本初となるオリンピックメダル獲得に貢献するなど、国内外で数々の実績を積み重ねてきた。現在は本学でテコンドーと韓国語を指導し、競技力の向上はもちろん、異文化理解や礼儀作法の大切さを学生たちに伝えている。今回は、テコンドーとの出会いをはじめ、競技の魅力や指導者としての思い、そして学生へのメッセージについて話を伺った。



- ◆資格・免許／テコンドー公認8段、国技院国際3級師範、2級専門スポーツ指導士
- ◆主な経歴／全日本テコンドー代表チームオリンピックコーチ(2000年シドニーオリンピック、2004年アテネオリンピック)、韓国全州芸苑芸術大学兼任教授、世界テコンドー本部国技院政府派遣師範(日本全域担当)
- ◆競技実績／韓国全国・海外大会にて、テコンドー8階級中5階級制覇、韓国全国・海外大会にて20回入賞



人生の原点となった テコンドーとの出会い

テコンドーを始めたきっかけは、小学生の頃に近所の道場で練習風景を見たことだ。幼い頃からサッカーに励んでいたが、テコンドーの力強く華麗な蹴り技はとても新鮮で、強く心を惹かれた。また、白い道着を身にまとい、礼儀を重んじながら稽古に励む姿にも魅力を感じた。

「自分もやってみよう」「きっと上手になれるはずだ」と思い、両親に相談したが、



当初は、「小学生が取り組むには難しいのではないか」と反対された。それでも諦めることなく思いを伝え続け、中学2年生から本格的にテコンドーを始めた。この出会いは、競技者としてだけでなく、現在の教育者・指導者としての歩みにつながる人生の大きな転機になっている。

世界中で愛される テコンドーの魅力

テコンドーは、年齢や性別、運動経験を問わず、誰でも取り組むことができるスポーツである。初心者から経験者まで、それぞれの体力や目的に応じた練習ができるため、無理なく続けることができる。現在では世界中で約1億人が修練していると言われており、その人気の高さが魅力物語っている。

テコンドーの特徴は、ダイナミックな蹴り技だけではない。柔軟性や体力の向上、護身術の習得に加え、礼儀や忍耐力、相手を尊重する心を養うことができるのも魅力の一つである。また、自分自身の限界に挑戦する過程で達成感や自信を得られることも大きな魅力だ。心身の成長を実感できる点こそが、テコンドーが世界中で親しまれている理由である。

テコンドー教育を通して 育みたい力

本学のテコンドーの授業やクラブ活動では、技術の習得だけでなく、人として成長するための多くの学びを得てほしいと考え

ている。テコンドーは韓国発祥であり、競技を学ぶ中で韓国の文化や歴史、言語への理解を深めることができる。また、礼儀作法や協調性、自らを律する姿勢など、社会で求められる資質を身に付けることもできると考える。

金教授は、「技術の向上には地道な努力が欠かせないが、その積み重ねは困難を乗り越える力や自信につながる」と語る。授業やクラブ活動で培った経験が、将来の進路や社会生活においても大きな財産になることを期待している。

テコンドーを通して心身を鍛え、広い視野と国際的な感覚を備えた人へ成長してほしい。オリンピックコーチとして世界を舞台に活躍してきた経験を持つ金教授は、そんな思いを胸に今日も学生たちと向き合っている。



介護啓発ユニット

「介護&ピース」と共同で作成した
「おたまじゃくし体操」を実施・撮影

4月28日、健康福祉学科は介護啓発ユニット「介護&ピース」のOB柳沼亮一さん（平成10年3月体育学科卒）と俳優のオラキオさんを招き、学生とともに「おたまじゃくし体操」の実施・撮影を行いました。本体操は、健康福祉学科の田中亨助教（健康運動指導士）と笠原岳人教授（理学療法士）が監修し、楽しみながら健康づくりや介護予防を促進することを目的としています。当日は音楽に合わせて体を動かし、会場は笑顔と活気にあふれました。学生たちは、参加者が安心して楽しく運動できる環境づくりの重要性や、地域・企業との連携の意義について理解を深めるとともに、健康福祉分野の専門職に求められる視点や姿勢を実践的に学ぶ貴重な機会となりました。今後も地域社会に貢献できる人材育成を目指し、多様な学びの場を提供していきます。



全日本大学女子硬式野球

春季大会で悲願の2連覇を達成！

5月に高知県安芸市営球場で開催された「第12回全日本大学女子硬式野球春季大会」において、本学女子硬式野球部が見事優勝し、悲願の大会2連覇を達成しました。歴代最多となる23校が出場する中で頂点に立つ快挙となりました。さらに、アリスオーヤマ杯やGIANTSカップでも優勝を果たし、チームは好調を維持しています。選手たちは「今年度の出場する全ての大会で優勝する」という目標を掲げ、日々の練習や試合に全力で取り組んでいます。2連覇に満足することなく、さらなる高みを目指す姿勢からは、勝ち続けることの難しさに挑み続ける強い覚悟が伝わってきます。支えてくださった方々への感謝と「全員で勝つ」という思いを胸に、本学女子硬式野球部の挑戦はこれからも続きます。

「2026東北こども博」を
開催決定！

東日本大震災からの復興支援と、子どもたちの笑顔や元気を取り戻すことを目的に始まった「東北こども博」は、平成23年の初開催以来、多くの皆さまに支えられ、今年で14回目を迎えます。本年は10月10日（土）の開催を予定しており、子どもたちやご家族が楽しんでいただける、さまざまな企画を準備しています。地域の皆さまとの交流を深めながら、笑顔あふれる一日となるよう取り組んでまいります。多くの皆さまにご来場いただき、思いに残るひとときを過ごしていただけることを心より願っております。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。



令和8年度SPReAD

第1回公募において、

本学・齋藤長行教授の研究課題が
採択されました。

6月24日（水）、先進的なAI研究を支援する文部科学省の「AI for Science 萌芽的挑戦研究創出事業（SPReAD）」第1回公募選考結果が発表され、本学から齋

藤長行教授の研究課題が採択されました。

公募には全国から15、868件の応募があり、そのうち採択されたのは、僅か456件で、採択率は2.9%という極めて狭き門でした。このような競争的な公募において、本学の研究課題が高く評価され、採択に至ったことは、本学の研究力の高さを示す成果と言えます。

齋藤長行教授のコメント

「このたび、AI for Science 萌芽的挑戦研究創出事業（SPReAD）に採択されました。本研究では、EU・英国・OECD・日本の青少年デジタル環境政策に関する一次資料を収集・整理し、AIで分析可能な形で構造化するとともに、国際比較研究に活用できる教師データの構築を進めます。各国の制度や政策対応を比較可能な形で可視化し、日本の課題や改善の方向性を明らかにしていきたいと考えています。研究成果は教育や政策提言に還元するとともに、本学におけるAI活用研究の発展にもつなげてまいります。



研究課題：青少年インターネット保護政策の国際比較 AI 教師データ構築—構造リスク審査基準の可視化と活用」

仙台大学同窓会の日本酒

スペイン酒類国際コンクール『CINVE2022』金賞受賞
国際日本酒コンクール『Oriental Sake Awards 2022』銀賞受賞／香港

本学の学生と蔵人により醸しだされた純米大吟醸です。味わいは酵母由来の香りを控えめにし、造り手のこだわりを感じ取れるように仕上げた究極の食中酒です。皆さんの過ごした青春時代を思い出しながら、あるいは親しい方と過ごした仙台大学を感じながら、また語らいながら、味わっていただきたいと思います。



使用米：宮城県産ひとめぼれ100%
精米歩合：50% アルコール分：16度
酵母：宮城酵母
酒質：日本酒度/＋4酸度/1.6アミノ酸/0.1
保存方法：－5度～5度の冷蔵管理
価格：1800ml・販売価格(税込)：3,520円
500ml・販売価格(税込)：1,430円

〈お申し込み・お問い合わせ〉
一般社団法人仙台大学同窓会
TEL・FAX(兼用)0224-55-1449



宮城県立角田支援学校 養護教諭

天野 貴文さん 平成23年度 健康福祉学科卒業

仙台大との出会いが 開いてくれた道

20年前、ある大学のパンフレットに書かれていた「男性養護教諭」という文字に心が動いた感覚を、今でも覚えています。当時は高校3年生の夏。部活動を引退し、ようやく卒業後の進路について悩み始めた頃でした。将来就きたい仕事がないか、思い浮かばず、頭を抱えていました。自分が養護教諭として働く姿も想像できず、養護教諭として働く男性がどれくらいいるのか、そもそも養護教諭の職務内容すらよく分かっていない状況でした。そんな中、「おもしろそう!」という不思議な魅力に引き寄せられました。まるで登山家が未踏の山を見つけたように、「とにかくそこに行きたい、目指したい!」と強く心が動いたことが始まりでした。

その期間に現場で働きながら多くの子どもや先生方との出会いが、今の自分を形作っているのは間違いないと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。

仙台大卒業直後に仙台大の渡邊康男先生にお会いした際、「仙台大生はフットワーク。足が止まったら終わり」という言葉をいただきました。今でもその言葉を心に留め、できる範囲で実践しています。年齢を重ねるにつれ、その言葉は噛み噛みほろりと味わい深く感じられるようになりました。

現在、仙台大学とも程近い角田支援学校で勤務しています。養護教諭として働く上では、他の先生方との連携が欠かせませんが、仙台大の同窓生教員が多く、とても心強く感じています。

養護教諭を目指したあの日から今日までを振り返ると、本当に人の縁に恵まれていると感じずにはいられません。

20年前は「男が養護教諭なんて無理でしょ!」と言われることもありましたが、今では「男性の養護教諭がいてよかった」と温かい言葉をかけていただくこともあります。改めて振り返ると、今こうして宮城県で養護教諭として働くことができて、いるのは、仙台大学での時間が精神的な支えとなり、人とのつながりというコミュニティの面でも、自分の基礎になっているからだと感じます。

このコラムが20年前の私にとってのパンフレットのように、誰かの一歩の後押しをするきっかけとなればとても嬉しく思います。

■お問い合わせ内容と主な関連部署

入試(学内見学)関係	入試課	0224-55-1017
求人、就職指導関係	就職課	0224-55-1017
学生生活関係	学生生活課	0224-55-3019
奨学金関係	奨学金事務課	0224-55-1038
成績、各種証明書発行関係	教育企画課	0224-55-1086
資格取得の支援関係	資格支援課	0224-55-1307
大学院(入試含む)関係	大学院事務課	0224-55-5706
同窓会関係	同窓会事務局	0224-55-1449

仙台大学(代表)

〒989-1693 宮城県柴田郡柴田町船岡南2丁目2-18

TEL 0224-55-1121/FAX 0224-57-2769

受付時間:平日 8:30~17:15(受付時間外は留守番電話に切り替わります)

今後も、仙台大学のトピックスや在学生・卒業生の活躍を皆様にお伝えすべくより良い紙面づくりのため、皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。アンケートにご協力をお願いいたします。

アンケートはこちら



仙台大学HP

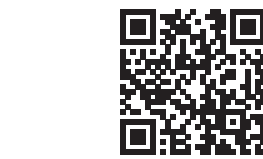


Instagram



在学生以外の住所変更はこちら

※在学生の住所変更は学生生活課にお問い合わせください。



X(旧Twitter)



Facebook



仙台大学は2025年3月13日付で「公益財団法人日本高等教育評価機構」が定める大学評価基準に適合している」と認定されました。